

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

(267)

各国、関心高く

研究セキュリティイダダンスを公表し、潜在的リスクや研究保護の方法を説明している。NPSAはガイダンスを通じ、学術機関が国際協力に関して、潜在的なリスク情報を

(NPSA)は2019年に学術機関向けのガイドダンスを公表し、潜在的リスクや研究保護の方法を説明している。NPSAはガイダンスを通じ、学術機関が国際協力に関して、潜在的なリスク情報を

英の研究 セキュリティ 手引き公表 リスク・保護説明

科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター
フェロー(安全安心グループ) **奥田 将洋**

経済産業省安全安全保障貿易管理調査等職員、日本原子力研究開発機構(JAEA)核不拡散・核セキュリティ総合支援センター(ISSCN)などを経て現職。博士(安全保障)

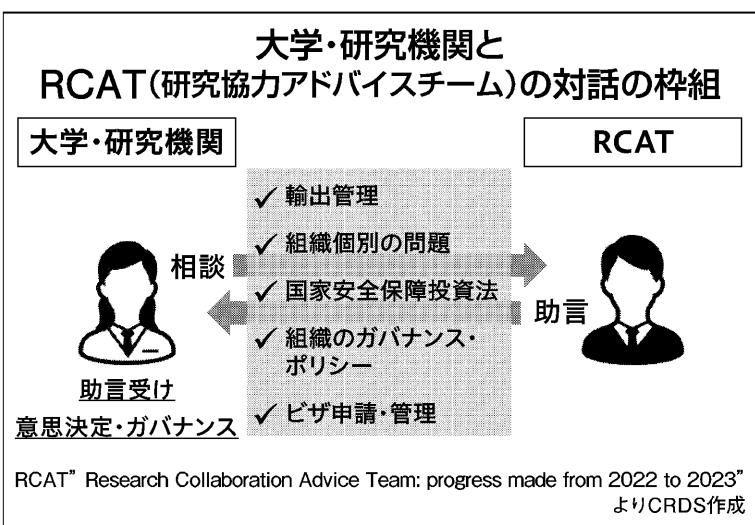


英国においては、Trusted Researchと称するコンセプトの下で研究セキュリティの取り組みが進められてきた。これを主導する国家保護セキュリティ局

踏まえた意思決定がで きるよう支援する役割を担っている。

大学の主要な大学24校が加盟するラッセルグループは、政府や議会に大学側の要望を伝える役割を担っている。現在、科学技術イノベーションは前述のような政府の施策を歓迎する一方、その実効性を高め、国際共同研究における安全確保上のリスクについて大学などのガイダンスなどを提供する。ラッセルグループは、輸出や投資の管理、研究者受け入れ審査やスパイ活動への対応が求められる。

ATは23年までに、輸出管理や投資管理など の法令、研究セキュリティのための組織ガバナンスに関する350件超の助言を行い、評価している。この他にも、NPSAなどには大学と対話を行う枠組みが設けられ、官学共同で研究セキュリティの課題に対応するための重要な機会となっている。



各国で大学に研究セキュリティへの対応が求められる中、その取り組みへの支援のあり方は、今後の重要な論点の一つとなるだろう。(金曜日掲載)